

●コース

霧山部落駐車場より左岸に渡る鉄橋を渡り入溪する。

川岸をへつって行くと、トユ状3段滝があり、さらに溯ると右手よりガレ谷が出合う。

短いゴルジュとなり小滝、3段滝、小滝、2段滝、2条4段滝とあり、右へ左へと谷は曲って続く。ゴルジュを終ると、釜を持つ3段2本が続く。

平凡な谷となると左より谷が出合い、上流は伐採され、谷は開ける。すると右岸に石垣作りのワサビ田跡がある。谷は左に曲り3段滝が懸かるが、左の大岩を伝って越える。

上流には丸木橋に板を敷いた橋があり、杣道が谷沿いに続き、つごう3回横切る。

谷は平凡であるが、このあたりは自然林が残り、岩に付いた苔の緑、清流、頭上の若葉と、自然に浸った沢登りが楽しめる。

やがて、右より谷が出合うとすぐそ

ために溯行時間が長く、沢慣れた人でも現地日帰りは無理で、途中一泊を要する谷である。

流域面積が広いため水量も豊富で、谷は美しく、右岸上部一帯は原生林が残っている。しかし現在、椎矢峠方面より、国見岳直下を林道が伸びているため、やがては他の地域と同じような無残な山肌を晒し、林道工事の土砂が谷を埋め、清流は赤茶けた泥水と化し、下流の自然をも死にいたらしめるであろう。

●アプローチ

熊本県上益城郡矢部町より、内大臣橋を渡り、椎矢峠越えて来るが、日向市より延々と時間をかけて入山する。それだけに溯行も価値があるというもの。小原部落上流の出合には民家が一軒ある。

●コース

入溪地は橋上流ですぐゴルジュとな

の上流で、国見岳直下に発した谷が左より出合う。中の谷を溯ると、浅いゴルジュの谷にはチョックストン3段滝があり、釜の右をへつって水際より右のガリーを登って滝頭に出る。この谷唯一のクライムである。すると上流には小滝、3段滝がありゴルジュを終る。水量三対二ほどの二俣となり、右俣には3段滝があり、その上流は石のブロックが積重なっている。上流もゴロの谷で、杣道が横切る。3段滝、10段ナメ滝、2段滝とあり、さらに杣道が横切ると、2段、1段、4段、4段

上の小屋谷

かみここや

〔交通〕熊本(車3時間)椎葉(椎矢峠越)

上の小屋谷出合

〔地図〕国見岳

●九州本土の代表的な谷

上の小屋谷は昔、尾前の人々が焼畑

0 るが、残念ながら近年砂防堤ができた。堤を越えると谷はゆるく左に曲り、

巨石の間を縫って右へ左へと徒渉して行くと、谷は左へ曲る。やがて長瀬が現われ、その出口に3段の滝がある。

1 現われ、その出口に3段の滝がある。浅いゴルジュが現われ、2つの淵を過ぎると、谷には巨石が詰まり、岩間

2 に小滝が懸かる。3メートル滝を過ぎるとゴルジュは終り、淵が現われ左をへつる。

3 明るくなった広い河原を溯ると、左には15段滝を懸けて支谷が出合う。本流には、岩間の3段滝や、巨石帯

があり、シオルダーで越えて行くと、さらに左より10段滝となって支谷が出合う。

6 そのすぐ上流にはS字のゴルジュがあり、その中の淵は膝までの徒渉で越えて行くと、砂防堤が現われ、なんとなく自然の世界から現実へと引きもどされる。ここは左を巻いて河原へ出ると、上流には、釜を持つ2段滝がある。ゴロの谷をしばらく溯ると、短い

の連瀑があり、下の3本は濡れて直登できるが、最上段は右より巻く。しかし、滝を見ながら杣道が左岸を巻いているので、それを伝ってよい。

両岸は杉の植林となり、しばらくで谷は二分し、右上には二本の大杉がある。溯行を中止し、左俣に沿って登ると尾根に達し、尾根を左に取って登ると約30分で国見岳山頂である。南西の展望が特によく、ヒカゲノツツジが目立つ。下山は杣道を辿ることになる。

参考 ▼溯行2時間、山頂までさらに50分 下山1時間30分

▽中級者向

を行って、作業用の小屋を作っていたので、この名があると伝えられる。

この谷は、上椎葉小原の部落上流で耳川に左より出合う谷で、谷自身は、長く奥が深い割には荒々しさはなく、ゆつくりと上流へ向かっている。その

ゴルジュに淵が2つあり、左、右とへつり進むと、右に支谷が出合う。

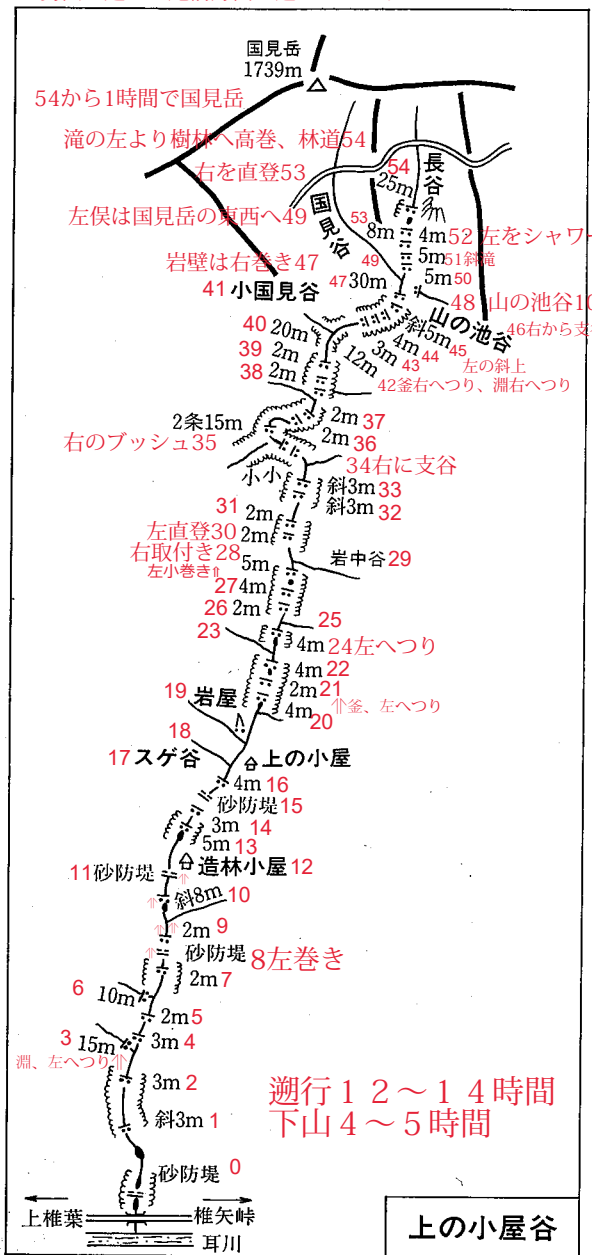
10 本谷には、露岩の中央を削って流れ落ちる8段斜滝があり、左の乾いた岩を越えると、続けて淵があり、砂防堤が現われる。ここは右を巻いて行くと、朽ちた造林小屋があり、再度谷へもどる。

12 しばらくでゴルジュの谷となり、中には巨石が詰まり、左に5段滝を懸けて支谷が出合う。大岩を乗越して行くと、淵がありチョックストン2段滝がある。大小の岩が詰まったゴルジュには2段5段滝があり、深い釜の左をへつって越える。瀑流帯となり、3段滝を越えると谷は明るく開け、緑が広がる。

15 ゴロの谷を伝うと、左より2本の支谷が出合い、なおも溯ると砂防堤がある。

16 飛石伝いに溯ると、浅いゴルジュに釜を持つ2条小滝があり、その上の2段4段滝を越えて行くと長瀬の上流で

国見岳山頂からの下山は時間は掛かるが
五勇山へ廻って尾前方面が道はしっかりしている



遡行12~14時間
下山4~5時間

48 浴びせる。右より支谷が出合い、さらに山の池谷が10㍊滝となつて右より出合う。
49 さらに溯ると二侯となる。左侯は直接国見岳の東西に、右侯は北へ向かつて、左に曲り東北面から国見岳を目指す。ここは右侯が滝数が多い。
50 さて右侯は5㍊滝、5㍊斜滝と直登すると、ゆるい傾斜の滝があり、連続がある。その上の4㍊滝は左をシャワー

54 ークライムで、続く8㍊滝は右を直登して行くと、桶状側壁を持った25㍊末広りの滝がある。右上方にはブッシュ混りの岸壁も望まれる。滝の左より樹林に入り高巻くと林道へ飛び出す。

23 傾斜のゆるい3㍊滝の上流で左より支谷が出合くと、桶状側壁をめぐらした4㍊滝があり、右をへつり登ると、右より支谷が出合う。
25 浅いゴルジュの谷となり、小滝、トユ滝、4㍊滝といずれも直登すると、淵と瀑流があり、左を小巻きする。さらに5㍊滝があり、右より取付き、滝芯に出て直登すると、トユ滝、2㍊滝とあり、ゴルジュを終る。
29 右より岩中谷が出合い、続いて左よ

40 小滝のみであった谷に今度は、20㍊7㍊滝を持つ支谷が出合う。
S字状のゴルジュを行くと、右より小滝のみであった谷に今度は、20㍊7㍊滝を持つ支谷が出合う。
ゴルジュが各所にあるが小滝が多く、直登できるのが楽しみ。積極的に水線を行くと、濡れるのも苦にならず、これが水との戯れかと溯行する幸を感じる。ここは九州最奥の上の小屋谷である。
35 ゴルジュに平流と交互に現われ、溯つて行くと、2条2段15㍊滝が現われる。これは直登は無理で、右のブッシュを巻き登る。

46 谷は右にゆるく曲り、5㍊斜滝があるが、これは左の斜上するバンドを伝つて滝芯へ出て直登する。谷は左に曲り、右より支谷が出合う。すると、この谷一番の30㍊滝が現われ、右の支谷へ出て、岩壁の右を巻いて、落口へ達する。
47 谷は明るくなり、さつと太陽が光を

17 スゲ谷が出合う。
本流にはインゼルがあり、左より支谷が出合う。すぐ袖道が横切り、上流には岩屋がある。平凡な谷となり、ゴルジュが現われると、巨石があり、シヨルダで越えるるとよい。
20 すぐ、釜を持つ立派な4㍊滝があり、釜の左をへつり登ると、2㍊滝、4㍊滝、小滝と続いて、流れは平凡となり、しかし、気分のよい谷であり、ナメが現われる。点在する石には苔が付いて緑が目染みる。

32 滝の右を登ると、谷は蛇行して続く。2㍊滝2本を越えると、谷は明るくなる。しばらくで右に支谷が出合う。
33 ゴルジュに平流と交互に現われ、溯つて行くと、2条2段15㍊滝が現われる。これは直登は無理で、右のブッシュを巻き登る。

43 谷は右にゆるく曲り、5㍊斜滝があるが、これは左の斜上するバンドを伝つて滝芯へ出て直登する。谷は左に曲り、右より支谷が出合う。すると、この谷一番の30㍊滝が現われ、右の支谷へ出て、岩壁の右を巻いて、落口へ達する。
44 谷は明るくなり、さつと太陽が光を

18 立派なゴルジュが現われ、釜、小滝と過ぎると、谷は直角に右に曲り、釜を持つ小滝と2㍊滝2本があり、左を直登すると平凡な谷となる。しかしさらにゴルジュとなり、ゆるい斜滝を越えて、3㍊斜滝の左を登り、スタレ状滝の右を登ると、谷は蛇行して続く。

34 谷は明るくなる。しばらくで右に支谷が出合う。
35 ゴルジュに平流と交互に現われ、溯つて行くと、2条2段15㍊滝が現われる。これは直登は無理で、右のブッシュを巻き登る。

41 ゴーロの谷には、釜を持つ4㍊斜滝があるが、右をへつり直登して行くとやがて小国見谷が左より出合う。あたりは、原生林が繁り、のんびり溯るなら、ビバーク地は各所にある。
ナメ滝、ナメとジャブジャブと水に浸つて溯っている、釜を持つ12㍊滝があり、釜の右をへつり、乾いた岩を直登する。上流は狭いゴルジュとなり、淵の右をへつり、トユ状流れを30㍊も溯ると3㍊滝、岩の詰った段状4㍊滝がある。
43 谷は右にゆるく曲り、5㍊斜滝があるが、これは左の斜上するバンドを伝つて滝芯へ出て直登する。谷は左に曲り、右より支谷が出合う。すると、この谷一番の30㍊滝が現われ、右の支谷へ出て、岩壁の右を巻いて、落口へ達する。
44 谷は明るくなり、さつと太陽が光を

谷はここより傾斜をゆるめ平凡になる。国見岳へはさらに1時間を要する。国見岳山頂からの下山は、時間はかかるが、五勇山へ廻って尾前方面の方

ヤゴロウ谷

〔交通〕 椎葉尾前(車20分) 尾手納
〔地図〕 不土野・国見岳

●沢登りを楽しみながら五勇山頂へ

耳川は日向椎葉湖上流、尾前の部落で右岸に水無川が出合う。この川を上流に向かうと主流は三本に分れる。ヤゴロウ谷は右俣で、五勇山山頂へと溯る谷である。

谷には、適当に滝が点在し、樹種も多く、若葉や紅葉の季節に入渓すると、溯行の楽しさが倍加される。

溯行後は、五勇山頂で脊梁山地の展望を楽しみ、登山道を伝って下山できるのもありがたい。

が道はしつかりしている。雷坂は、林道直下が崩壊等で不明な箇所が多いので十分注意を要する。

参考▼溯行12~14時間 下山4~5時間

▽初級・中級者向

●アプローチ

尾前の部落より右岸に出合う水無川沿いに上流へ向かう。車で20分も行くと尾手納の部落に達し、このあたりの空地に車を止める。

さらに上流萱野の部落に達し、ここより五勇山方面への登山道を伝い、谷を横切るあたりで入渓する。

●コース

岩石が谷を埋めているが、しばらく飛石伝いに溯るとさっそく7段滝があるので、右を直登する。側壁があり、小滝を3本越えて行くと、しばらくで、側壁を持った立派な10段滝がある。これは大岩の右側を登

斜滝8段は手足の突張りで、滝上に出る。

3連瀑があり、沢音を響かせながら流れ下るが、流れに沿って登ると、谷は右に曲り、左には巨石がある。小滝が7本続き、容易に乗り越して行くと左へゆるく曲り、小滝を越えたと、ハグエ谷が左から出合う。

本流は、正面に側壁が立ち、立派なチョックストン15段滝が現われる。水の飛沫を浴びていると盛夏でもぞくぞくと寒気がする。この滝は直登は無理で、左のブッシュを巻き上る。

